

# 平将門

(たいらのまさかど)



木間ヶ瀬 駒形神社

野田市木間ヶ瀬の駒形神社は、平将門の馬を祀(まつ)った神社といわれます。また野田市内には、この他にも将門の伝説が多く残っています。10世紀に起こった平将門の乱と、その頃の野田市周辺の様子を探ってみましょう。

桓武天皇の子孫で、平姓を名乗った桓武平氏は、関東地方の国司(こくし)や鎮守府(ちんじゅふ)将軍となり、任期を終えた後も関東地方に留まり、勢力を張りました。その一族の中に生まれた将門は、京都にのぼって藤原忠平(ただひら)に仕えたこともありました。しかし、承平5年(935)に土地をめぐる争いから、常陸国筑波郡(ひたちのくにつくばぐん)(茨城県つくば市)にいた伯父の国香(くにか)を滅ぼし、さらにおじの良正(よしまさ)・良兼(よしかね)、従兄弟の貞盛(さだもり)らと合戦を交えました。

将門は、武蔵国(むさしのくに)の国司と足立郡司(あだちぐんじ)の争いを仲裁するなどの活動もしました。しかし、常陸国府に税を納めなかった藤原玄明(はるあき)をかくまったことが原因で、天慶2年(939)に常陸国府、さらに下野(しもつけ)・上野(こうずけ)(栃木県・群馬県)の国府(こくふ)を襲撃する事態になりました。その後、将門は「新皇」を名乗って坂東諸国の国司を任命し、下総国猿島郡石井郷(さしまぐんいわいごう)(茨城県坂東市ばんどうし)を都と定め、国家からの独立を宣言しました。こうした将門の行動は、反乱とみなされ、翌年に平貞盛・藤原秀郷(ひでさと)らによって鎮圧されるという結末を迎えました。

将門は都を定めると同時に、下総国相馬郡大井津(そうまぐんおおいのつ)を重要な船着場として指定しています。大井津が現在のどこに当たるかは諸説ありますが、野田市域の利根川沿岸と考えた学者もいました。馬を飼育した牧については、『延喜式(えんぎしき)』から長洲牧(ながすのまき)の存在が知られています。長洲牧は現在の坂東市長須に当たり、野田市の対岸に位置しています。利根川は江戸時代の初めまでは東京湾に注いでいて、現在の利根川の場所には、ゆるやかな流れの河川があったといい、対岸に渡るのも容易であったようです。

伝説と史実とは切り離して考えなければなりません。しかし、野田市域に多くの将門伝説が残っているのは、その拠点の近くに位置していたことによるのです。

詳しくは...

\* 村上春樹 2003 「関宿付近の将門伝説」『千葉県立関宿城博物館研究報告』7号 千葉県立関宿城博物館

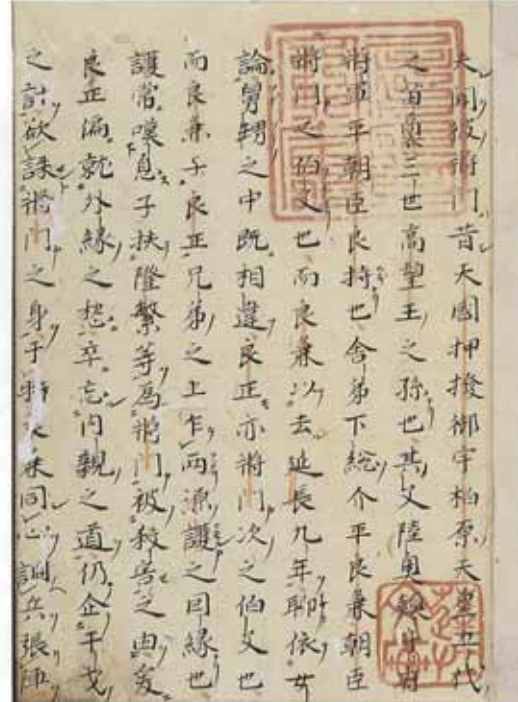
## 将門伝説の場所(主要なもの)と伝説の内容

- |            |                   |
|------------|-------------------|
| 駒形神社(木間ヶ瀬) | : 将門の馬を祀る。        |
| 白山神社(木間ヶ瀬) | : 将門が植えた桜があった。    |
| 武者土(木間ヶ瀬)  | : 合戦中に武者人形を作った。   |
| 木幡神社(木野崎)  | : 将門を祀る小祠があった。    |
| 長久寺(瀬戸)    | : 将門が寄進した毘沙門天がある。 |
| 八坂神社(瀬戸)   | : 将門が崇敬。旧称は山王権現社。 |

平将門像（坂東市 国王神社所蔵）



『将門略記』（蓬左文庫所蔵）



下総国西部と  
将門関係の地名



地名は、現地名（史料に見える地名）の順で示した。河川・湖沼、郡境は推定